

ON!

Old but New

伝統を残しながら、変わり続ける街
大手町・丸の内・有楽町の
街づくりを発信する情報誌

この街は、ギャラリーだ。

Inspire the imagination

HEAVEN ARTIST
IN Marunouchi
"MEDAMAN-MEDAMAN"

2004 SUMMER

002



お昼時ともなれば、多くの人にベンチとして使われる。

「HEMISPHERE CIRCLE」 東京国際フォーラム

アートと街の幸福な関係。

ビジネスの街として、そしてファッションの街としても知られるこの街に、憩いや楽しみを付け加えているのが、街角を飾るアート作品だ。しかし、芸術品や工芸品だけがアートではない、とON!は考える。好奇心を刺激してくれるものや、驚きを与えてくれること、すべてがアート。そうした視点で見ると、実は、この街は驚きにあふれている。座って休むことができる石のオブジェがある。歴史の重みを感じる建築物がある。街頭では、人々を集わせるパフォーマンスが繰り広げられ、お気に入りのアートを買うこともできる。そう、この街は、まるでギャラリー！街を生き生きとさせるために、通りや広場をアートのステージにする試みも実施されている。アートは街の活力源！この街では、さまざまなアートが人々を楽しませているのだ。大手町・丸の内・有楽町の街づくりのコンセプトを発信するON!の第2号では「使う」、「想う」、「集う」、「買う」といった視点から大手町・丸の内・有楽町のアートを探る。

使う



Art for living

観るだけじゃものたりない。
この街には実際に使えるアートがある。

鑑賞するのに疲れたら、
どうぞ、お座りください。

東京国際フォーラム広場に出現したストーン
サークル？これはリチャード・ロング氏の作
品「HEMISPHERE CIRCLE」。HEMISPHERE
とは半球という意味。神秘的な世界に想いを
はせた後は、輪になって座ってみては。
(Photo:前ページ参照) **A**

一見ただの彫像。
いえいえ実はポストです。

この彫像、よく見ると台座がポストに。もちろん、
実際に使われている。「コスモス」は大手町の「て
いば一く」(通信総合博物館)に、「響(エンジェル)」
は東京中央郵便局にある。天使のポストから
手紙を出せば想いが届くかも。どちらも乗松
巖氏の作品。



橋柱がアートしている!?
中央線東京駅付近高架橋。

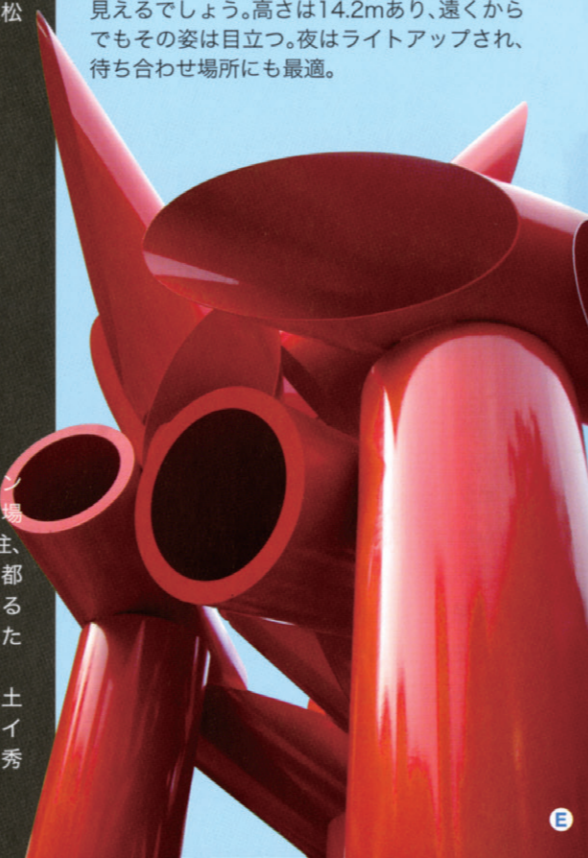
緑青色のこの柱、よく見ると中央部が太いエン
タシスに。時代が求めるデザインではなく、場
所が求めるデザインを重視したというこの柱、
重たいコンクリートの高架橋を軽快に見せ、都
市空間を明るく演出するためのもの。



2001年度土
木学会デザイ
ン賞・最優秀
賞を受賞。

遠くからでも目立つ、赤い巨大彫刻。
待ち合わせ場所にご利用ください。

一体何に見えますか?「Iliad Japan」と名付け
られたアレクサンダー・リーパーマン氏の作品。
ホメロスの叙事詩「イリアッド」のトロイの木
馬を題材にしたもの。ほら、よく見ると木馬に
見えるでしょう。高さは14.2mあり、遠くから
でもその姿は目立つ。夜はライトアップされ、
待ち合わせ場所にも最適。



想う

Historic art
明治、大正、昭和そして今日、
つねに時代の中心地であった
この街のアート。人々は
歴史のロマンへ想いをさせる。

古いビルと新しいビルが
一体化している。

そう見えるのは、日本工業倶楽部会館・三菱信
託銀行本店ビル。日本工業倶楽部会館の歴史的
景観を保存・再現するためにこのような不思議
な建物になった。正面屋上には坑夫と織女の彫
像が当時のまま残っている。戦前の日本経済の
中心であった石炭と紡績を表したものだ。



このファサードは、
激動の20世紀を歩んできた。

DNタワー21の仲通り側には旧農林中金ビル
のファサードが残されている。次に紹介する
明治生命館の円柱がコリント式なのに対して、
こちらはイオニア式と呼ばれるもの。上部の
手の込んだ造形は、当
時のものがそのまま
残されている。古きよ
きものと新しいもの
が見事に融合した一例。



重要文化財の明治生命館は
日本における様式建築の最高傑作。

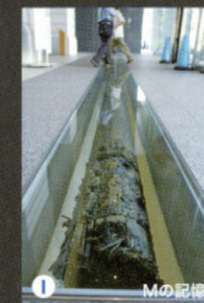
5層をつらぬくコリント式の円柱が荘厳な美
しさを演出。円柱の上部の造形は、アカンサス(葉
アザミ)の葉を模したもの。現在も明治安田生
命の社屋として利用されて
いる。昭和の建築物としては
初めて国の重要文化財に指
定された。内部も素晴らしく
一見の価値あり。建築家・岡
田信一郎氏の遺作である。



◎毎月第1日曜日(10:30~16:
30 最終入館16:00まで)に1F
営業店頭のみ一般に無料公開。た
だし、リニューアル工事のため平
成16年9月より1年間、公開を中断。

床に埋まった黒々とした巨木。
さて、これは一体何だろう。

丸ビルの幸福通り側エントランスに不思議な
アートがある。気づかずに跨いでいってしまう
人も多いかも。これは、旧丸ビルの基礎に使わ
れていた松の杭を素材にした「Mの記憶」という
作品。よく見ると1923~1999の年号が刻んで
ある。すぐ横には、その松杭を模したオブジェ
が対をなして立っており、そこには2002年か
ら先の年号が刻まれている。また、エントラ
ンスには、旧丸ビルの3連アーチが復元されている。



集う

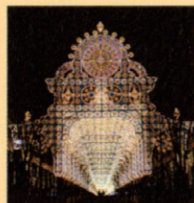
Performance Art

人々が集うところにアートが生まれる。
この街の通りや広場は、
様々なアートが繰り広げられるステージになる。



この街でしか見ることができない
光の芸術、東京ミレナリオ。

街の通りや広場といった公開空地为舞台装置として見立て、「祝祭」という特別の時空間に変貌させる東京ミレナリオ。1999年から始まり、今や東京の冬の風物詩として定着している。光が持つ根元的な美しさをたたえ、集う人々を心のエネルギーで満たす。



©Valerio Festi/I&F Inc.

駅は、音楽表現のステージでもある。
Break Station LIVEに注目。

東京駅の情報発信スペース「Break(ブレイク)」では、毎週金曜日、隔週土曜日にライブが開催されている。出演するのはプロのミュージシャンとオーディションに合格したアマチュアミュージシャンたち。仕事やショッピングの帰りに立ち寄り、素敵なサウンドに耳を傾けてみては？



牛が街角に現れた！
世界規模の公共アートイベント。

1998年にスイス・チューリッヒで始まった公共アートイベント「カウパレード」。“牛”を素材にアーティストたちが芸術作品を制作。作品は街角に展示され、展示後はチャリティ・オークションにかけられる。2003年には、有楽町丸の内・大手町エリアで開催され64頭の牛が出現した。



街角で出逢える芸術。
ヘブンアーティスト IN 丸の内。

ヘブンアーティストは、東京都がライセンスを発行しているストリート・アーティストたち。この街でも通りや広場などの公開空地为「街の中にある劇場」として彼らに提供している。アーティストと観客との交流を通して芸術文化が育まれていく。



フランスの芸術的大道楽人、ダーク・ラクー。5月4日、オープンカフェ・イン・丸の内にて撮影。



Gyoko-dori Ave.

D

Tokyo Sta.

A

買う

Art for Sale

アートを観るだけでなく実際に手に入れたい。
そんなニーズにもこの街は応えてくれる。



大江戸骨董市で
掘り出し物探し。

東京国際フォーラムの地上広場では、毎月第3日曜日に「大江戸骨董市」が開かれている。江戸開府400年記念事業としてはじまったもので露天骨董市としては日本最大規模。海外からの旅行者にも好評だ。200店以上が出店していて、見て歩くだけでも十分楽しめる。



H.P.FRANCE BIJOUX

COMME des GARÇONS

COACH

ショーウィンドウだってアート。
ストリート・ギャラリーを散策しよう。

仲通りに建ち並ぶファッションブルな専門店。ショーウィンドウのディスプレイも店ごとに個性があふれている。美術館の回廊を歩くように、ショーウィンドウを眺めながら街を散策してみては？

部屋に飾るアートを買いいたいなら。

東京国際フォーラムのアートショップを覗いてみては？丸ビル内にあるコンランショップにもアートの香り高い商品がたくさんあります。

フォーラムアートショップ:Tel.(03)3286-6716 C
コンランショップ丸の内店:Tel.(03)5288-6600 D



INTERVIEW * Ryoichi Enomoto
この街に「マグロの回遊」を
創り出したいんだよね。

今までは、この街を目的を決めずに訪れる人って、あんまりいなかった。でも、渋谷や原宿って、まるで泳ぎ続けないと生きていけないマグロのように、「街を回遊」する人がたくさんいますよね。それには何か魅力的なものが必要。それが、アートやイベントなんですね。

僕は、去年の「カウパレード」に続いて、「東京コンペ」というプロジェクトをこの地で計画しています。展示だけじゃなくて、パフォーマンスなど、できるだけオープンな場で若い作家たちのアートを見せてゆく。今まで見たことのない刺激を与えてくれるアートが、ここから育っていくんじゃないか、と期待しています。

この街は、古いものも残る成熟した街です。僕の役割は、このコンサバティブな街から、21世紀のアートを発信してゆくこと。街に来る人も参加できる、そんなアートを創ってほしいですね。



榎本 亮一
クリエイティブ・ディレクター、アート・プロデューサー。74年から「月刊ビックリハウス」の編集など。2003年、「カウパレード」のプロデュースを手がける。

T O P I C S

糖業会館・ニッポン放送本社ビル この3月に竣工。

大丸有地区でまた、建て替えが完了した。本年3月末に竣工した糖業会館・ニッポン放送本社ビル(地下4階・地上9階、延床面積:約13,000m²)である。この建物は透明感のあるガラスを組み合わせ、旧糖業会館のアルデコ調を生かした格調の高さと、ニッポン放送の情報発信基地としての



機能性が両立。街並みと調和した雰囲気を出している。地下2階にジョン・レノンの“IMAGINE”のスピリットをモチーフにした「イマジンスタジオ」があり、多目的スタジオとして、有楽町からまた新しい情報が発信される。

三菱一号館が復元される。

平成21年度の竣工を目指して、三菱商事ビル・古河ビル・丸の内八重洲ビルの3棟が一挙に建て替えられるが、その計画地に丸の内最初のオフィスビル「三菱一号館」が復元される。日本に初めて誕生した近代オフィス街「丸の内」は、ビジネスだけではなく、文化も充実した街づくりを描いてきたと聞くと、今回の三菱一号館復元は、その創成期の思想を改めて認識させるものであり、文化的な発信も想定した「丸の内らしさの源泉」を示すものといえるだろう。



完成予想図

官民協調によるオープンカフェを開催。

去る5月3日・4日の2日間、丸の内仲通りにおいて「オープンカフェ・イン・丸の内」が開催された。地元と関係行政が協調・協力して実験的に行ったもので、丸ビル前から晴海通りまで約850mの歩道や空地に約60個のテーブルと約200席の椅子を設置し、賑わいと憩いの空間を創出した。



本誌持参の方は、丸の内地区の美術館で入館料が割引に。

相田みつを美術館・出光美術館・東京ステーションギャラリー(50音順)のご協力により、本誌持参の方(1冊で1名)に入館料を割引いたします。

- 相田みつを美術館・出光美術館
入館料を200円割引(9月5日まで)
*相田みつを美術館の小学生料金は100円割引
- 東京ステーションギャラリー
大人に限り入館料を100円割引(9月12日まで)



発行:大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635号
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
ホームページ <http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/>

●編集後記

「ON!」は、「街づくりをやさしく、柔らかく」をテーマに、街づくりを紹介する新しいスタイルの小冊子です。創刊2号では、いつも目になっているものから、見過ごしてしまうものまで、独自の視点で「アートと街の関係」について、

とりあげてみました。この一冊を持って、あらためて、この街の魅力を再発見していただければ、幸いです。なお、ご意見、ご要望等ございましたら、ぜひ下記までお寄せください。

e-mail:tcc@lares.dti.ne.jp